

研修グループA：医療系グループまとめ

1. これまでの流れ

図書館を使った授業のうち、ディベートに注目。

理由) ディベートは多くの場合さまざまな角度からの入念な下調べが必要で、実際にサポートする場合、どんな資料を集めるか、どんな情報を提供できるかが重要なポイントとなるため。

2009年度…ツールガイド「食の安全」をテーマに再調査

ディベート大テーマ決定「食品輸入の是非」

ツールガイド「食の安全に関する資料」完成

ディベート議題決定「中国産食品の輸入の是非」

2010年度…ツールガイド「食の安全に関する資料」を参考に中国産食品について調査

ディベートフローシートを埋める

ディベート実践「中国産食品の輸入の是非」

アフターディベート（ディベート振り返り&「ディベート実践！資料リスト」完成）

ディベート入門プリント（生徒用・先生用）作成

調べ学習ガイド「資料の見方・探し方」（生徒用）プリント作成

2. まとめ

ディベートをどうサポートするか、実際に自分たちが選んだ資料でディベートを体験し、資料を再検討したことで、資料を選ぶ際のポイントが具体的にイメージしやすくなった。また、各自が自校の先生方に「図書館はディベートをサポートします」「ディベートとは・・・」といった情報を伝えるためのプリントや生徒たちに「資料の探し方」や「ディベートのポイント」などを伝えるプリントを作成したことで、ディベートだけでなく調べ学習へのかかわり方を見直すきっかけになった。（グループで作成したものは毎回の司書部会で配布済み。使えるものがあれば自校用にアレンジを加えてぜひ活用してください。）

今後は、それぞれがこれまでの研修で得た成果を調べ学習の場でしっかりと実践を重ね、反省点、改善できた点、先生方や生徒の声などの情報を共有し、生徒たちの学びをより充実したものにしていきたい。

研修グループB：社会科学系グループまとめ

平成 21 年度・・・「裁判員制度」に関するレファレンス・ツール冊子の作成

平成 20 年度の授業との連携研修で第 2 グループが作成した冊子を基本に、「裁判員制度」の関連項目が掲載されているかどうかの調査を、百科事典・用語辞典・年鑑・統計・白書・雑誌・新聞・インターネットと担当を決めて行った。冊子を完成させ、自校や県立図書館にどのような資料がどのくらいあるのか情報共有することができた。

平成 22 年度・・・「裁判員制度」のパスファインダーの作成

そしてその他の社会科学分野のテーマで各自がそれぞれパスファインダーを作成調べ学習の授業で利用がありそうなパスファインダーを作成してみようとなり、まずは「裁判員制度」をテーマに各自がそれぞれA4・1枚のパスファインダーを作成した。

そして出来たものを見合って感想を言い、良いところを取り入れて、次は他の社会科学のテーマで作成してくることとした。

夏の高教研備前支部第 1 回研究会では、先生との「学校図書館と授業の連携をめざして」のフリートークの場で、今までに作成したパスファインダーを見ていただき、意見をいただいた。こういう資料を司書が作ること、いろんなテーマで作ることに驚かれている先生もいらっしゃった。次はパスファインダーを使った授業の実践に近づくために、自校の先生にグループが作成したパスファインダーを見てもらい意見をいただくこととした。先生からは一番初めの「手がかりキーワード」が生徒はまず思い浮かばないだろう、テーマ設定が最重要であるのに導き方が足りないのではないか、ブックリストは多い方が良い、やはり授業者との事前の打ち合わせが必要、などのアドバイスをいただいた。

そしてグループで話しをして、1枚のパスファインダーに盛り込む情報量には限りがある、A4が定番だけれど学校図書館では情報量に応じて大きさを変えてもいいのではないか、別プリントで資料の探し方やレポート作成時の引用や参考文献記述の説明がいるのではないか、そういうプリントだとどの授業にも対応できて良いのではないか、またパスファインダーは資料を探せる段階でないと使いこなせないのではないか、という意見がでた。

1年間を通して、グループ内でパスファインダーの改良を重ねていけたこと、先生からの貴重な意見がとても勉強になった。今後は実際の授業で活かされるようにそれぞれが働きかけていき、実践を通して、授業に活かされるものに改良されていけば良いと思う。

研修グループC：人文科学系グループまとめ

1. 研修テーマ

『源氏物語』についての授業を仮定して、図書館側から行うことができる授業支援について研修を行った

2. 研修の流れ

平成21年度・・・源氏物語についてのブックリスト、パンフレット作成

一口に源氏物語といっても内容が多岐にわたるので、源氏物語の衣食住文化、作中に登場する和歌、現代語訳、作者紫式部、源氏物語が後世に与えた影響の5つの分野に担当を振り分けて、ブックリストを作成した。このブックリストを用いて、実際に司書自身が生徒になったつもりで調べ学習を行い、源氏物語についてさまざまな切り口からパンフレットを作成した。源氏物語のゆかりの地をたずねる研修旅行を仮定したものや、その時代の風俗・習慣を特集したパンフレットなど、それぞれの担当分野で工夫をこらしたものが提出された。

平成22年度・・・ブックリスト修正、研修旅行、他作品での展示・ブックリスト等作成

司書が作成したブックリストについて、自校の教員より感想を聞き、リストに修正を加えた。また、高教研備前支部第1回研究会でも、参加された先生方にこれまでの研修の経過、成果物を説明して意見をいただいた。先生方からは、源氏物語のみならず、授業で使われそうな作品について、幅広くブックリストが作成されていると良いことや、現状では教員に司書の力が伝わっていないことがあるので、PRをしてほしいことなどが意見として出された。

源氏物語でブックリストを作成した経験を、他作品にも活かそうということで、自校で先生方に授業予定課題を聞いて、各校で使えるブックリストを作成し、実際に調べ学習や、展示などに活用した。

『こころ』や『平家物語』の定番作品から、現代作家宮部みゆきの調べ学習や、百人一首の特集を行った学校もあった。

また、研修と並行して11月に、源氏物語の舞台となった京都で「源氏物語のゆかりの地を訪ねるツアー」を行った。全支部に参加を呼び掛け、備中支部からも、教員、司書が参加し、研修に加わっていただいた。京都御所や恵文社、源氏物語風俗博物館をたずね、実際の舞台に触れることで一層、知識・経験を深めることができた。旅行の内容について各自新聞作成、展示なども行うことができた。

3. まとめ

司書自身が生徒になったつもりで調べ学習を行い、成果物を出したことで、使用しやすいブックリストはどのようなものかを身をもって感じるすることができた。また、先生方からも多く意見をいただいたことで、授業者からの観点も加えることができたと思う。また、図書館でレファレンスツールに当たるだけでなく、実際に物語の舞台をたずね、経験できたことは、財産となった。

今回の研修で学んだことを活かして、源氏物語に限らず、さまざまな課題から、授業に図書館が関わる機会を増やしていくことが今後の目標である。